

福山の団体

海が つなぐ新特産品

キーホルダー開発

金具・シヤツクル

尾道帆布

福山市内の商店や製造業の関係者らでつくる「備後特産品研究会」(中島基晴会長)は、同市が国内生産の大半を占め、船の係留などに使われるU字型の金具「シヤツクル」と、尾道市特産の「尾道帆布」を組み合わせた「帆布シヤツクルキーホルダー」(長さ約12センチ)を開発、販売している。

「海でつながる備後」をテーマに企画。府中市特産の桐箱きりばこに入っており、1個1050円。帆布は赤、青、黄など6色ある。6月にオープンした「備後ふくやま

丸ごと物産館」(福山市延広町)や、道の駅アリストぬまぐま(同市沼隈町)など福山市内4か所で販売している。

中島会長は「シヤツクルが、福山市の特産品であることをもっと多くの人に知ってほしい」と話している。問い合わせは、同研究会(084・922・4870)。



尾道帆布とシヤツクルを組み合わせたキーホルダー(福山市御船町で)